

Title	資料 : 国際交流活動に対する中国の学生及び教師の 感想と意見
Author(s)	思, 沁夫
Citation	GLOCOLブックレット. 2013, 10, p. 141-144
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/48264
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

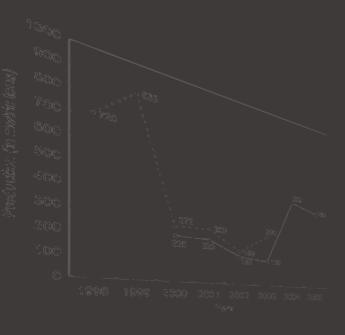
https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka



【第2部】

学生及び教員の活動・研究報告(中国)



資料

国際交流活動に対する中国の学生及び教師の感想と意見

思沁夫(編訳)

2011年12月9日~10日、中国農業大学で 日中学生シンポジウム「海外調査で得たもの は」と日中国際シンポジウム「グローバル化と 少数民族の食・安全・健康」が開催された。

シンポジウムには中国農業大学の学生の 他、中国中央民族大学、人民大学からも学生、 教員らが参加した。交流会の終了後、中国 の学生からメールにて感想や意見を頂いた。 それらを抜粋し、発表や交流の様子、彼らの 意見などを報告する。

①**黄孝東**:中国中央民族大学民俗学·社会学院博士前期課程 文化人類学専攻 (男性)

昨日(9日)と今日(10日)は、大阪大学と農業大学が開催した国際会議に参加することができて大変良かったです。国際会議に参加した経験はあまりないですが、今回の会議に参加して、分野(特に理系の先生たちの発表)や言葉の壁などによって充分に理解できなかった内容もありましたが、大変刺激を受けました。特に以下の2点に関しては大変勉強になりました。

研究に対する姿勢(態度)。日本から来られた先生と学生は、自分にとっての学び、自分にとっての研究よりは、自分の研究と社会、地域との係わりを非常に重視しているように感じました。自分には、研究を通じて社会に貢献するという発想はなかったので、大変新鮮でした。研究の位置付けの違いからか、日本人の素質からかはよく分かりませんが、日本人は自分の発表と会議に参加に来た人たちに対する姿勢(態度)が大変謙虚で、親切

でした。

日本人は、理論よりも事実、具体性を重視する。これも多分研究姿勢と関係する問題と思いますが、日本人の発表は、具体性があり、データを収集する方法もデータの利用も大変丁寧に扱われている印象を受けました。丁寧と言いましたが、責任感を感じました。

社会制度や文化が違うため、簡単な比較はできないが、いろいろ考えさせることが多かったです。結果や結論を急ぐ私たちの研究姿勢と対照的に、プロセスを大切にする日本人の皆さんから学んだことは大きいと思います。

②**黄峥峥**:中国農業大学人文·発展学院 学部 1年 (男性)

私は、中国の西部農村地域から首都北京 に来たばかりで、分からないことが多いが、 国際会議に参加する機会に恵まれて大変幸 運だったと思います。大阪大学の皆さまに感 謝します。

私は、9月の入学式典の際、初めて「文理融合」という言葉を聞きました。この言葉を使った先生(多分院長)は、文理融合の視点から食や農を考えることが大切と強調しました。しかし、具体的な例が示されなかったので、その意味がよくわからなかったです。しかし、今回国際会議に参加して、ほとんどの発表者が文理融合の視点から研究成果を発表しましたので(この理解は正しいですか?)、この言葉に対するイメージが少しだけ具体的になりました。

資料:国際交流活動に対する中国の学生及び教師の感想と意見 143

しかし、今回は学生の交流もあると聞きましたが、実際は殆どなかったと思います。日本から遥々来た学生にとっても、私たちにとっても、少し残念です。

国際交流において、英語と知っている情報が大変重要だなと感じました。語学力と知識がないと交流の主役に成れないと思います。 今回の刺激を受けてもっと勉強したいと思いました。

③**高佳琦**:中国農業大学人文·発展学院 学部 1年 (女性)

日本の学生たちは、流暢な英語で発表ができるので、恰好いいと思いました。彼女たちは、日本語もできるので、2言語でコミュニケーションが出来ますよね。私は、英語を毎日勉強していますが、簡単な質問もできなかったので、もっと勉強しないといけないと感じました。

私たちは、入学したばかりで、専門の勉強はまだですが、今回の会議を通じて、食に関する関心が高まりました。中国の食は不安全のものが多いと言われています。それはなぜですか。モラルの問題と思いましたが、先生(思沁夫)は、社会構造上の問題や法律制度の問題などいろいろ原因があると言いました。もし、原因がいろいろあるなら、簡単には理解できないですね…。

いろいろな本を読んで、また、日本の学生たちのように調査して考えたいです。

④段立思: 中国農業大学人文·発展学院 学部 1年 (女性)

今回の会議を傍聴して、自由について考えました。会議中、質問や討論のとき、日本人は自由に意見を言っているように感じました。私たちは、正確な答えを言わないといけないという観念に縛られ、自由に意見や感想を言えなかったです。日本人の学生が先生と違う意見を主張しているのを聞いて、最初は少しびっくりしましたが、これが本当の学習かもしれないと感じました。いままで、発言する機会があれば、正確を主張するだけでしたが、もっと自由に考えて見たいと思います。しかし、自由に考えるため、社会に対する理解も必要と思いますので、いろいろな所に行って、社会を観察したり、いろいろな人から話を聞いたりしたいです。

⑤**李妍颖**:中国農業大学食栄養化学学院 学部3年 (女性)

日本も中国も儒教文化の国です。なぜ、近代以降、日本と中国は大きな差があったのか。私は、この問題について非常に興味があります。いままで、自分なりに本を読んで考えてきました。今回、日本人と交流することを通じて、少し分かったことがありました。それは、日本人の仕事、研究に対する姿勢の問題です。日本人の先生の発表は勿論、学生の発表も大変丁寧で真面目でした。例えば、今回食に関する発表が多かったですが、日本人は食をもっと丁寧に扱い、謙虚な気持ちで理解に努めていました。この差は、恐らく食の安全

問題にも現われています。先輩たちが日本で 食について調査し、その調査に基づいた発表 で、私と同じことを感じたと言っていました。 私たちは、謙虚な気持ちで物や人に接触する ことを日本人から学ぶべきと思います。

⑥**张莹**:中国農業大学食栄養化学学院 学部 2年 (女性)

私は中国農業大学で2年間勉強したが、勉強とは、教室や実験室で知識を吸収することと思っていました。社会調査を通じて食や環境問題を考えることが大変有益であることを今回先輩たちの発表を聞いて感じました。日本の学生たちは、中国の山東省で社会調査を実施し、中国の学生は大阪、水俣や京都で調査を行いました。これらの発表は、これらの調査に基づいているため、大変面白く、説得力がありました。

試験室や教室の答えは1つですが、社会は常に複数の答えがありました。それらをまとめるのは大変そうですが、真実に近づける第一歩と思います。彼女たちの発表に、社会を知れば知るほど研究の目的がはっきりする(問われる場合もある)という言葉がありました。大変印象に残りました。

②**项颖倩:** 中国農業大学人文·発展学院 学部 1年 (女性)

私は以前から一度、日本に行き、勉強したいと思っていました。おそらく難しいと諦めていましたが、今回日本から来られた先生や学生との交流を通じ、可能性があると感じ嬉し

く思いました。報告会もとても素晴らしかっ たのですが、日本の学生と一緒に夕食で会話 したことが大変印象に残りました。日本人(学 生)の皆さんはとてもやさしく、友好的でした。 私の日本語も英語も下手であり、また交流の 時間も短かったのですが、大変楽しく有益に 過ごせました。また、日本の先輩たちと会い たいですし、その機会を切実に望んでいます。 交流会の参加者は決して多いとは言い難いで すが、私たち中国人の学生は大変強い印象と 感銘を受けました。特に私にとって印象深い のは日本人の学生さんがプログラムや先生た ちに対して、もう少し学生にやらせて欲しい という要望や意見を述べていたことでした。 私たちは出来るだけ先牛方に多くのことを任 せたいと思っていますので、日本人の学生は 非常に主体的に学んでいると感じました。

⑧周津春:中国農業大学人文·発展学院 科学技術管理研究科 講師 (女性)

2011年12月9日~10日に農業大学で開催された日中学生シンポジウムと日中国際シンポジウムは、内容は勿論、形式も大変新鮮でした。司会や講演者の経験にもよるかと思いますが、常に聴衆を意識し、講演者と会場は連動しており、議論や質問する際、大変しやすく参加者全員のための会議になっていました。

上述した内容に関係しますが、文理融合という響きは大変魅力的ですが、実際に文系の人が理系の人の発表を聞くと、ちんぷんかんぷんの場合が多く、内容の消化不良で、ディ

.....

スカッションに至らないことがしばしばです。 しかし今回は、日本やモンゴルから来た発表 者は、事前にいろいろ努力されたと思います ので、発表内容は大変わかりやすく、そのた め、議論が盛り上がったと思います。

特に金先生(中国社会科学院・生物学)の講演は素晴らしかったです。

グローバル化の進展に伴い、食を取り巻く 状況はますます複雑化し、原因も分散してい ます。今回のシンポジウムでは、異なる視点 からの考察や研究成果の共有を通じ、解決 への糸口の模索が大変重要と感じました。

学生発表からは、大変恥ずかしいながら、社会調査10年もやっているにもかかわらず、多くの発見、いろいろ学びことがありました。もし、農業大学の学生がもっと努力したとしても、ここまでは出来なかったと思います。感心しました。阪大生はレベルが高いです。